

令和7年度 英国派遣交流事業報告書




2025年11月13日(木)~11月21日(金)


北谷町教育委員会


CONTENTS


～目次～


	教育長あいさつ	P1
---	---------	-------	----

	令和 7 年度英国派遣交流事業経過報告	P3
---	---------------------	-------	----


	令和 7 年度北谷町英国派遣交流事業実施要項等	P4
---	-------------------------	-------	----


	第25回北谷町中学生英語スピーチコンテスト発表文	P9
---	--------------------------	-------	----

	令和 7 年度北谷町英国派遣交流及び視察研修について	P17
--	----------------------------	-------	-----

	英国派遣団報告書				
生徒	北谷中学校	3 年	安里 朋華	P20
〃	北谷中学校	3 年	鈴木 怜彩	P21
〃	北谷中学校	3 年	田場 輝	P22
〃	北谷中学校	3 年	平田 桜	P23
〃	北谷中学校	3 年	屋宜 葵	P24
〃	桑江中学校	3 年	島袋 愛菜	P25
〃	桑江中学校	3 年	桃原 英士	P26
〃	桑江中学校	3 年	山城 麗亜	P27
	生徒全員一言コメント			 P28
引率	北谷中学校	教諭	大城 直	P31
引率	桑江中学校	教諭	大嶺 愛子	P36

	英国派遣交流写真集		P39
---	-----------	---	-------	-----

	令和 7 年度英語スピーチ・カンバセーションコンテスト	P47
---	-----------------------------	-------	-----

	令和 7 年度英国訪問団受入れ【交流の様子】	P48
---	------------------------	-------	-----



教育長あいさつ

北谷町教育委員会

教育長 原田 利明

北谷町英国派遣交流事業は、平成13年（2001年）に開始されて以来、毎年交流団をイギリス西部のディーン・マグナ・スクールへ派遣し、授業参加やホームステイを通して両校の交流を深めてまいりました。

通算22回目を迎えた今年度も、派遣された生徒たちは伝統的なイギリスの建造物や豊かな環境、ホームステイでの温かい受け入れ、そして、ディーン・マグナ・スクールの生徒が熱心に授業を受ける態度に深く感銘を受けました。この経験を通して、生徒たちからは、失敗を恐れず積極的に行動すること、自分の意見を英語で伝えることの難しさとともに大切さを学び、更なる英語学習への意欲や海外留学への決意を固め、将来は英語を使って人の役に立つ仕事に就きたいと夢を語るなど、多くの感動と新たな夢や希望が芽生えた様子がうかがえました。

北谷町教育委員会では、このような国際交流事業を通して、異文化理解や相互理解を促進し、異なる文化を持つ人々と円滑に協調して生きるための資質や能力を育むことを目指しています。そのため、英国へ派遣する生徒の選考については、これからの国際社会を担う児童生徒にとって国際共通語としての英語能力は重要な基礎的能力であることから、「中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト」を実施しております。また、令和元年度からは学校推薦枠を設け、派遣生徒数を増員することで、町立中学生全体の英語力の向上を図ってまいりました。

さらに、すべての小学校にAET（外国語指導助手）を配置するなど小学校段階からの国際理解教育を推進し、コミュニケーション手段としての実用的な英語力の育成に努めております、今後も、より一層充実した国際交流のあり方と英語教育を推進し、国際化に対応する人材の育成に励んでいく所存です。

結びに、今年度も北谷町の派遣団を温かく迎えてくださったディーン・マグナ・スクールの校長先生はじめ、ご尽力いただいた先生方、生徒及び保護者の皆様に、心から感謝申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。

Message from Superintendent

Chatan Board of Education, Toshiaki Harada

Since 2001, Chatan Town has been sending exchange team to Dean Magna School, in western England to deepen the international understanding through school visits and home-stay, introducing their own culture.

This year, making the 22nd exchange program, the students were deeply impressed by traditional British architecture, the rich natural environment, and the warm welcomes from the host families, also impressed by the enthusiastic, diligent attitude of Dene Magna students in their classes. Through this experience, the students gained valuable insights: the importance of acting proactively without fear of failure, the challenge and significance of expressing their opinions in English. This sparked new motivation for further English study, strengthened their resolve to study abroad, and led many to dream of future careers using English to help others.

The Chatan Town Board of Education aims to promote cross-cultural understanding and mutual comprehension through such international exchange programs, fostering the qualities and abilities needed to live harmoniously with people from different cultures. To this end, the Junior High School English Speech and Conversation Contest is held to select students to be sent to the UK, as English language skills as a lingua franca are an important basic ability for students who will be responsible for the international society of the future. Furthermore, starting in fiscal year 2019, we established a school recommendation quota and increased the number of dispatched students to enhance the overall English proficiency of all town junior high school students.

Additionally, we are promoting international understanding education from the elementary school level, such as by assigning AETs (Assistant Language Teachers) to all elementary schools, striving to cultivate practical English skills as a means of communication. We intend to continue striving to promote more substantial international exchange programs and English education, and to nurture human resources capable of responding to globalization.

In closing, I would like to express my heartfelt gratitude to Dean Magna School's principal, Mr Declan Mooney along with all the teachers, students, and parents who worked so hard to warmly welcome Chatan Town's delegation team again this year. I look forward to ever growing friendship for many more years to come.

令和7年度 英国派遣交流事業経過報告

1 学校長推薦による派遣者の選出

英作文提出、面接、校内オーディション等により各中学校男女各1名を決定

2 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストによる派遣者の選出

7月16日(水) 出場者全員でカンバセーションパートに関するルール確認と練習

8月28日(木) 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト実施
上位4名を英国派遣生として内定

3 英国派遣までの取り組み

9月24日(水) 英国派遣事前学習会①

- ・今後の日程調整
- ・訪問中の日程に関する説明

9月25日(木) 英国派遣保護者説明会

- ・英国訪問の心得等の説明会(生徒・保護者)
- ・訪問中の日程に関する説明

10月1日(水) 英国派遣事前学習会②

- ・ホストファミリーへの自己紹介文作成
- ・現地での過ごし方、英会話の練習

10月8日(水) 英国派遣事前学習会③

- ・北谷町の歴史、インディアンオーク号についての研修

10月15日(水) 英国派遣事前学習会④

- ・現地での学校・文化紹介発表準備

10月29日(水) 英国派遣事前学習会⑤

- ・現地での学校・文化紹介発表準備

11月5日(水) 出発式：町役場1階 レセプションホール

- ・最終確認(訪問スケジュール、持ち物、保険の確認等)

11月13日(木) ○出発 那覇空港 → 羽田空港 (1泊)

11月14日(金) ○出発 羽田空港 → ヒースロー空港

英国ディーンマグナススクールにて交流・ホームステイ

11月21日(金) ○帰沖 那覇空港

11月26日(水) 事後学習会①

12月3日(水) 事後学習会②

12月10日(水) 事後学習会③

12月11日(木) 英国派遣交流帰国報告会：町役場1階 レセプションホール

令和7年度北谷町英国派遣交流事業実施要項

令和7年度北谷町英国派遣交流事業を次のとおり実施する。

1 目的

次代を担う中学生を英国に派遣し、異文化及び異言語を体験することで、国際感覚を養うとともに国際理解を深めさせ、もって将来、本町の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

2 北谷町英国派遣交流事業の概要

(1) 事前学習

派遣前に5回程度事前研修を行い、派遣生に派遣事業の意義を十分に理解させ、学習意欲を高めるとともに、派遣者として必要な教養と国際的な視野を培い、さらに派遣者相互の人間関係の円滑化を図る。

(2) 現地学習

現地の学校での授業への参加、ホームステイ、史跡の見学等を通して、現地の教育、文化、歴史等の学習を行うとともに、現地の学校の生徒との交流を通して見聞を広める。

(3) 事後学習

派遣後3回程度、事後研修にて現地学習の報告を行い、派遣終了後も体験を活かして地域や学校において活発に活動する。

3 派遣期間

令和7年11月13日（木）～11月21日（金） ※日本国内での前泊含む

4 派遣事業の日程

後日「令和7年度北谷町英国派遣交流事業日程表」にて示す。

5 派遣場所

派遣先は、英国のディーン・マグナ・スクール及びその近郊とする。

6 派遣者の資格要件

派遣者は、次の資格要件を全て満たすこと。

- (1) 北谷町立中学校に在学している者
- (2) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (3) 通算1年以上又は継続して6箇月以上、英語圏生活経験者（就学前の期間を除く）及びこれに類似する経験を有しない者
- (4) 北谷町の歴史及び文化を学び、それを海外の人々に伝えようとする主体的な意欲を持っている者
- (5) 町が実施する国際交流事業への参加又は協力等により、本町の発展に寄与する意欲がある者
- (6) 心身ともに健康で、海外における所定の期間の学習及び生活に適応できる者
- (7) 教育委員会が実施するハワイ短期留学派遣事業又は他市町村のホームステイ派遣事業等に参加したことの無い者

- (8) 在学する学校長の推薦及び保護者の承認が得られる者
- (9) 日本国籍を有する者、または英国 ETA（電子渡航認証）の申請要件を満たす者

7 派遣人員等

北谷町立中学校に在学している生徒 8 名

8 選考及び派遣者の決定

- (1) 派遣する生徒8名のうち4名は、各学校で開催した選考会により各学校長が推薦する男子1名、女子 1 名とする。生徒への周知及び作文・面接等による選考会は各学校で実施する。
- (2) 派遣する生徒8名のうち4名は、令和7年8月28日(木)に行われる北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストにより選考する。コンテスト出場にあたっては各学校で選考会を実施し、4～5名の学校代表者を選出する。

9 引率者

- (1) 引率者は、派遣者が在学している学校の教諭2名で、学校長の推薦による者とする。
- (2) 引率者の役割は、派遣生徒の学習等の補助及び健康管理とする。
- (3) 旅程中の生徒の危機管理責任者として、急な体調不良者への対応を現地交流校担当者と連携して行う。
- (4) ディーン・マグナ・スクールにおける授業参観を通して、教材、教具(ICT機器等を含む)、生徒の反応や変容の様子、指導形態等について観察するとともに、現地担当者等と積極的に交流することにより英国の教育方法を学び、その成果について報告書を作成する。
- (5) 英国訪問団受入時の交流について、現地担当者と交流方法や内容について意見交換する等の調整を行う。
- (6) 帰国後に、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取組に資すること。

10 経費の支給等

派遣者として決定された者の経費（航空賃、車賃、宿泊費、日当（引率者のみ）、支度料、その他教育長が必要と認める経費）は町が支給するものとし、支払方法は、北谷町会計規則(平成5年北谷町規則第19号)、北谷町職員の旅費に関する条例（平成4年北谷町条例第1号）及び国家公務員等の旅費に関する法律（昭和25年法律第114号）の定めによるところによる。なお、教育長が必要と認めたときは、町は派遣者等への支給に代えて、旅行社等へ直接支払うことができる。

11 派遣生徒の決定取消

派遣の決定後、派遣することが不適当と認められる事由があった場合は、その生徒の派遣を取り消すことがある。

12 派遣交流事業の報告

派遣交流事業終了後、派遣者は、派遣報告書を教育長に提出するものとし、英国派遣交流報告会にて発表する。

第 25 回北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト開催要項

1 趣旨

今後の国際社会に対応するために、将来を担う児童生徒が積極的に世界の人々と交流ができる資質や能力の基礎を培うことが求められる。本町の人材育成の視点から、中学生の英語スピーチ等コンテストを開催し、町内中学生全体の英語力のアップと実践的コミュニケーション能力の向上を図る。

2 主催 北谷町教育委員会

3 日時 令和 7 年 8 月 28 日(木) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 30 分 ※受付午後 1 時 30 分～

4 場所 ちゃたんニライセンター カナイホール

5 出場者 北谷町立各中学校の代表者 4～5 人 ※学校代表については各校で選考会を開催し選出する。 ※原則として、男女比を均等に選出することが望ましい。

6 出場資格

- (1) 北谷町立中学校に在学している者
- (2) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (3) 通算 1 年以上又は継続して 6 箇月以上、英語圏生活経験者（就学前の期間を除く。）及びこれに類似する経験を有しない者
- (4) 北谷町の歴史及び文化を学び、それを海外の人々に伝えようとする主体的な意欲を持っている者
- (5) 町が実施する国際交流事業への参加又は協力等により、本町の発展に寄与する意欲がある者
- (6) 心身ともに健康で、海外における所定の期間の学習及び生活に適応できる者
- (7) 教育委員会が実施するハワイ短期留学派遣事業又は他市町村のホームステイ派遣 事業等に参加したことのない者
- (8) 在学する学校長の推薦及び保護者の承認が得られる者

<留意点>

- ・いかなる期間においても英語を主として授業を行う学校に通学していた生徒は対象外とします。
- ・外国籍の生徒については、(1)～(8)を満たせばコンテスト出場は可能ですが、派遣については、英国 ETA（電子渡航認証）の申請要件を満たす者となります。

7 スピーチ及びカンバセーションについて

(1) スピーチについて

- ① 文章内容：学校生活や将来の夢などに関する中学生らしいテーマで、中学生が使用する単語や文法、文章を使用する。
- ② 発表時間：2 分 30 秒以上 3 分以内

(2) カンバセーションについて

- ① 内容： 学校生活や日常的な活動に関する 1 つのトピックに基づき、英語で質問や会話をする。トピックは事前（約 3 週間前）に学校を通して通知する。
- ② 方法： 司会（大人）を中心に、出場生徒同一の席でトピックの内容について英語で会話を行う。生徒は上記に関する簡単で日常的な英会話と積極的な発言が求められる。
- ③ 時間： 30 分以内

8 審査基準

(1) スピーチ審査基準 (40 点満点)

- ①【内容】文の構成(導入、本文、結び)、独創性
- ②【用語選択・言い回し】文法、発音、語彙
- ③【話し方】明瞭さ、声の大きさ、強弱、身振り手振り、表情
- ④【暗記】

(2) カンバセーション審査基準 (60 点満点)

- ①【内容】自分なりの考え、意見
- ②【構成(質問・返答)】内容に沿った質問・返答
- ③【発音】
- ④【語彙】言い回し、表現
- ⑤【積極性】話す意欲
- ⑥【態度】聞き方、話し方のマナー、表情

※スピーチとカンバセーションの評価比はスピーチ4：カンバセーション6とする。

9 審査 英語に関する学識者5人により協議して審査する。

10 表彰 最優秀賞1人、優秀賞3人、優良賞6人

11 派遣 上位入賞者の中から北谷町英国派遣実施要項に基づき、4名を選考し、イギリス派遣を内定する。

第 25 回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト審査員・結果

1. 審査員構成

英語の堪能な 5 人で審査員を構成する。なお、審査員長は審査の統括、講評を行う。

2. 審査員氏名

審査員長	沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科 教授	津波 聡
審査員	沖縄県立球陽高等学校 英語教諭	比嘉 愛莉
審査員	沖縄県立球陽高等学校 ALT 講師	ブリタニー ヤング
審査員	沖縄県立球陽高等学校 ALT 講師	フェイス ジェラルデス
審査員	沖縄県立北谷高等学校 英語教諭	オータ 佳奈子

カンバセーション司会 北谷町立北玉小学校 英語指導助手 トム ディマイク

3. 出場者

最優秀賞 1 名 屋宜 葵（北谷中 3 年） My Dream 「私の夢」

優秀賞 3 名

島袋 愛菜（桑江中 3 年） Breaking Down Language Barriers 「言葉の壁を越えて」

平田 桜（北谷中 3 年） What I learned though Art Club 「学びでいっぱいのキャンパス」

安里 朋華（北谷中 3 年） I want to try even though I could fail 「失敗するかもしれないけど挑戦したい」

優良賞 6 名 （発表順）

神谷 宙和（北谷中 3 年） A boy from Okinawa who learned a lot in America 「アメリカに行って沢山の
ことを知った沖縄の少年」

高安 高琉（桑江中 3 年） What English Gave Me 「英語がくれたもの」

嘉陽田 真衣（北谷中 3 年） Two Dreams 「2つの夢」

前里 泰我（桑江中 3 年） The Future I Imagine for Myself 「僕が描く僕の未来像」

山川 奏（桑江中 3 年） If I could be the principal for one day 「もし 1 日だけ校長先生になれたら」

島袋 花（桑江中 3 年） Tahitian Dance 「タヒチアンダンス」



Chatan Junior High School

Aoi Yagi

My dream

“Haisai, gusuyo, chuganabira.”

This is Shimakutuba, a dialect of Okinawa. It means “Hello. How are you all doing?”

Last summer, on a flight to Osaka with my family, I heard a flight attendant say this Okinawan greeting in her on-board welcome announcement. Despite the familiarity of the phrase, I felt like I was hearing it for the first time. I was surprised because I thought the cabin attendants would use only English or Japanese.

My dream is to become a flight attendant, so I am always excited to get on a plane and see them working. But this dream grew stronger in 5th grade of Elementary school when my father was assigned alone to Miyako Island for work. Until then, airports and airplanes had always been fun, exciting places for me. When I tearfully waved my father off to Miyako, the airport became a place to say goodbye, a sad place. I realized that the airport – even just one airplane - is full of so many different people, some excited to go on a trip, some sad to say farewell to loved ones, some just looking forward to getting home to their families. And the flight attendant is there for all these different people. That’s when I thought, “I want to be like that!”

I’m sure the flight attendant on that flight to Osaka wanted to give the passengers the first page of beautiful memories of Okinawa. For me, born and raised in Okinawa surrounded by emerald-green seas, where people come together as one in the unique Okinawan Kachashi dance, and anyone can be family after just one encounter, I felt that Shimakutuba could be the gateway to revealing the charms of Okinawa.

I want to become a flight attendant and welcome people from all around the world to Okinawa. I want to tell the passengers “Haisai” and show the charms of this beautiful island. And someday I may get to experience places I’ve never been before and hear their languages and share in their unique experiences. And that is why I want to be a flight attendant. I will work hard to make my dream come true!

私の夢

「はいさい、ぐすーよー、ちゅうがなびら。」

これは沖縄の方言、しまくとうばで、「こんにちは。みなさんお元気ですか？」という意味です。

去年の夏、家族と大阪行きの飛行機に乗っていたとき、機内アナウンスでこの沖縄の挨拶を耳にしました。よく聞くフレーズであるにも関わらず、初めて聞いたような気がして、驚きました。なぜなら、私はキャビンアテンダントはいつも英語を使うと思っていたからです。

キャビンアテンダントになることは小学五年生の頃からの夢なので、飛行機に乗ってキャビンアテンダントが働いているのを見るのはいつもワクワクします。小学校 3 年生の時に東京ディズニーランドに行き、以来、空港や飛行機は私にとって楽しくてワクワクする場所でした。キャビンアテンダントになるという私の夢が強くなったのは、父が仕事で宮古島に単身赴任することになった時です。涙ながらに父を宮古島へ送り出す時、空港は突然、別れを告げる、悲しい場所となりました。この経験から、空港には、たった一機の飛行機の中にさえ、実に様々な人が乗っていることに気がつきました。待ちに待った旅行に興奮している人もいれば、愛する人に別れを告げて悲しんでいる人もいます。通勤している人や、家族のいる家に帰るのを楽しみにしている人もいます。そして、その中でキャビンアテンダントは礼儀正しく、辛抱強く、温かく、さまざまな人々にサービスを提供しています。その時、「私もあんな風になりたい!」と思いました。

さて、しまくとうばの挨拶の話に戻ります。大阪行きの便のフライトアテンダントは、楽しい旅行を終えて帰国する乗客に、あるいは愛する人を残して帰る乗客に、沖縄の美しい思い出を残したいと思っていたに違いありません。エメラルドグリーンの海に囲まれ、カチャーシーという沖縄独特の踊りで人々の絆が生まれ、ちょっとした出会いで誰もが家族になれる沖縄で生まれ育った私にとって、しまくとうばは沖縄の魅力を知る入口になるような場所だと感じました。

私はキャビンアテンダントになって世界中の人々を沖縄にお迎えしたいです。乗客にみなさんに「はいさい」と声をかけ、この美しい島の魅力を伝えていきたいと思っています。そしていつか、これまで行ったことのない場所の魅力を体験し、その土地ならではのユニークな体験を共有できるようになるかもしれません。だから私は、キャビンアテンダントになりたいです。夢を叶えるためにがんばります！

Kuwae Junior High School

Mana Shimabukuro

Breaking Down Language Barriers

Everyone, I have a question for you. Do you know what the number 42% means? This percentage shows how many people spoke Shimakutuba (the Okinawan language) in 2024. Looking at this number, I thought it was important to learn and pass on Okinawan culture.

I have been a member of the Okinawa Hands-on Youth Club since I was in the third grade of elementary school. I have been learning Shimakutuba, Okinawa's traditional culture and events, and gyueese there. Gyueese is a traditional prayer for happiness and family health said in front of the family Buddhist altar. When I was younger, I was always listening to my grandmother's gyueese, but I didn't know the meaning of the words.

However, by learning Shimakutuba at the youth club, I could understand the gyueese's words. I thought Shimakutuba had a lot of thoughtful words and it was a wonderful language.

Moreover, as part of my activities there, I participated in the practice of a local chorus group. At first I was so nervous that I couldn't dance or sing at all, but the people in the group were very kind to me, so I could sing songs and dance with them. Through my experience in the local community, I realized that it was easier to communicate with local people when I spoke Shimakutuba, and that the local people were very kind. This experience was the treasure of my life.

In addition to that, I met a group of Maori people who had come from New Zealand to learn about Okinawan culture, and I learned about their culture as well. I was able to gain international values and a diverse way of thinking through this experience, but I didn't understand the content very well because I didn't speak English. So, I was frustrated. Therefore, I am studying English hard, and I am working hard to communicate with a variety of people.

I want to promote Shimakutuba worldwide in the future and help revitalize my local community. To do that, I need to speak English to teach Okinawan culture to as many people as possible. Moreover, I treasure Shimakutuba and Okinawan culture, and I want to share that treasure with the world.

言葉の壁を超えて

皆さんに質問があります。42%と聞いてどのような数字かわかりますか？この数字は 2024 年にしまくとうばを使うと答えた人の割合です。この数字を見て私は、沖縄の文化を学び継承することがとても大切だなと思いました。

私は小学校低学年の頃から「沖縄ハンズオンユースクラブ」の一員として、沖縄の言葉「しまくとうば」や沖縄の伝統的な文化、行事、グィースを学んできました。グィースとは仏壇やヒヌカンに健康や幸せを願う伝統的なしまくとうばです。小さい頃は、おばあちゃんのグィースをよく耳にしていたのですが聞いていても意味がわかっていませんでした。ですが活動を通して、グィースの意味やしまくとうばを理解することができるようになりました。私は、しまくとうばには人を思いやる言葉がたくさんあり、素敵な言葉だなと感じました。

また、私はしまくとうばを伝えるために、地域の方々と一緒に活動の一環として、コーラス隊の練習に参加しました。最初は緊張していて、踊ることも歌うこともできませんでした。が、地域の方々がとても優しく接してくれて緊張も吹き飛び、歌ったり踊れるようになりました。地域での活動を通して、しまくとうばで会話をする方がコミュニケーションをとりやすいことに気づいたり、地域の方はとても優しく温かい人たちなんだなと思いました。なので地域の人とつながることはとても大切なことと感じ、私にとっての、「人生の宝物」になりました。

さらに、私は、ニュージーランドのマオリ族の方々と文化交流をしました。他の国や地域の文化を学ぶことで、国際的な価値観や多様な考え方を身につけることができました。ですが、話の内容が難しくいまいち理解できなかったり、交流をする中で思うように英語が喋れずにとっても悔しい思いをしました。そのため、現在私は、英語も勉強し、いろんな人とコミュニケーションが取れるように頑張っています。

私は、将来しまくとうばを世界中に広めて、地域をたくさん盛り上げていきたいです。そのためには英語を話せるようになり、沖縄の文化を一人でも多くの人に伝えなければなりません。そして、私の宝物であるしまくとうばと沖縄の文化を世界に共有したいです。

Chatan Junior High School

Sakura Hirata

What I learned through Art Club

“I just love drawing.”

That simple reason led me to join the art club in my second year of junior high school. Looking back, I realize that the club became much more than a place to enjoy my hobby - it became the roots of my growth.

At first, I thought I could just draw whatever and however I liked, but when I started preparing for my first competition, I quickly hit a wall. I couldn't draw what I pictured in my mind. Shading, perspective - they were harder than I expected. I realized that creating art requires careful observation and deep thinking.

Our teacher told us, “Observation is the foundation of art.” So, I started looking closely at reference materials. I noticed how even the color of skin changed depending on the light or angle. Instead of just painting skin as “peach”, I worked hard to capture what was really there, and this shift in perspective changed how I approached my work.

Art club also taught me perseverance. Finishing a piece often took hours, with many revisions along the way. Sometimes, I felt like quitting, but my friends encouraged me: “You're almost there!” “It's looking really good!” Their words gave me strength to keep going. When I finally completed my piece and won an award, the sense of achievement was beyond words!

The biggest lesson, though, was gaining the courage to express myself. In competitions, I often doubted myself: “Is this good enough? What if people don't get it?” But our teacher said, “There is no single right answer in art. Express what's inside you.” That message gave me confidence to pour my feelings into my work.

Through art club, I didn't just improve my drawing skills. I learned to believe in myself, to keep going and to support others. The time spent in the art room, the quiet focus at the canvas, the laughter shared with friends all became a part of who I am.

Joining the art club was one of the best things that happened to me. I will never forget the lessons learned there. And no matter what lies ahead, the joy of drawing and the strength I gained will always be with me.

学びでいっぱいのキャンバス

「絵を描くことが好き」

それが中学 2 年の時の私が美術部に入部した単純な理由だった。今では、私にとって美術部が単なる趣味を楽しむ場所ではなく、成長の原点となっている。

入部当初は、ただ好きなように描いてれば良いと思っていた。しかし、最初のコンクール作品制作で私は壁にぶつかった。思うように描けない。陰影のつけ方も遠近感の表現も難しかった。その時気づいたのは、「絵を描くには、よくみて、深く考えることが必要だ」ということだった。

顧問の先生に「観察力がすべての基本だ」と教わり、私は資料の細部に目を向けるようになった。同じ肌でも光の当たり方や角度によって色も質感も異なる。単なる“肌の色”で塗るのではなく、そこにある“本物”を捉えて描く。そんな意識の変化が、私の作品を大きく変えていた。

さらに、美術部で欠かさなかったのが「継続する力」だ。1 枚の作品を仕上げるのに、何十時間もかけて描き込み、修正し、また描く。途中で逃げ出したくなることもあった。でも、仲間たちがそっと声をかけてくれた。「あと少しだよ」「すごくよくなってきたね」。その言葉に背中を押され、私はまた筆を握った。努力の末に完成した作品で賞を受けたときの喜びは、今でも忘れられない。

そして、一番大きな学びは「自分を表現する勇氣」だ。コンクールでは、自信がなくて「こんな絵でいいのか。ちゃんと理解してくれるのかな」と不安になることもあった。そんなとき、先生がかけてくれた言葉がある。「作品に正解はない。自分の中にあるものを信じて描けばいいんだ。」その一言が、私にとって何よりの支えとなった。

美術部で得たのは、ただの美術のスキルだけではない。続ける力、人と支えあう心、そして自分を信じる強さだ。キャンバスに向き合った日々、仲間と笑いあった放課後、絵を通じて自分を見つめた時間。そのすべてが、私の中にしっかりと根を張っている。

この場所に出会ったこと、それは私にとって人生の宝物だ。これからも私は、「好き」という気持ちを原動力に、絵と、そして自分自身と向き合っていきたい。

I want to try even though I could fail

I have experienced intercultural exchanges many times. When I was in the second year of junior high school, I volunteered for the Kinser Elementary School Summer Camp held on a US military base. I taught Japanese and American children a game where they had to guess how many marbles they had in their hands. However, the children kept showing their marbles, so the game did not work. Using gestures, I carefully showed them how to play until they understood properly. I realized that if words alone cannot convey something, we can communicate with gestures.

Then last winter, I had an unforgettable cultural exchange that helped me grow a lot. My cousin hosted a boy from Singapore, and we attended their home party. At first, I was nervous and thought “What should I say? What if I don’t understand...” and I couldn’t say anything. Then my cousin told me “Just say something. It’s okay! Be confident!” So I found the courage to ask, “What did you *ate* in Japan?” and he replied, “I ate natto.” I was SO happy that he understood my broken English! After that I asked him about life in Singapore. As the conversation continued, I was able to hear and understand what he was saying. I was very excited!

Once again, I realized that I could make myself understood even if I didn’t know all the words and grammar, as long as I had the desire and courage to communicate. Courage can overcome language barriers. I think it is important to focus on what we want to say and just act.

I treasure a certain phrase in the lyrics of the song “Try everything” from the movie Zootopia. The words are “I want to try even though I could fail”. Whenever I listen to this song, I remember that it is important to try even if we might not be understood.

If I get the chance to study in the UK, I will not be afraid of failure. I will be brave and ask questions about their culture and way of life; and I will actively communicate with people. I want to tell them about the traditions and food of Japan and Okinawa. I don’t need to speak well. I will remember what my cousin taught me and the phrases from my favorite song.

I WILL try even though I could fail.

北谷中学校 3 年

安里 朋華

失敗するかもしれないけど、挑戦したい

私はこれまで何度か異文化交流を経験しました。中学 2 年生の時、米軍基地で開催されたキンザー小学校のサマーキャンプにボランティアとして参加しました。そこで、日本人とアメリカ人の子どもたちにおはじきを使ったゲームを教えました。子どもたちは手に何個のおはじきがあるかを当てるゲームです。しかし、子どもたちはおはじきを出しっぱなしにするので、なかなかうまくいきませんでした。そこで、子どもたちがきちんと理解するまで、ジェスチャーを交えて丁寧に遊び方を教えました。言葉だけでは伝わらないことも、ジェスチャーで伝えられるのだと実感しました。

そして昨年、私を大きく成長させてくれた忘れられない異文化交流がありました。いとこがシンガポールから来た男の子を家に招き、私はそのホームパーティーに参加したのです。最初は緊張して「何を話せばいいんだろう？もし伝わらなかったらどうしよう…」と不安になり、何も言えませんでした。でも、いここに「何でも言って。大丈夫！自信を持て！」と励まされ、勇気を出して「日本では何を食べましたか？」と尋ねたところ、「納豆を食べたよ」と答えてくれました。彼が私の片言の英語を理解してくれたことが本当に嬉しかったです！その後、シンガポールでの生活について質問してみました。会話が進むにつれて、彼の言っていることが聞き取れるようになり、とても興奮しました！

改めて、たとえ単語や文法が分からなくても、伝えたいという気持ちと勇気があれば、自分の言いたいことを伝えられるのだと実感しました。勇気があれば言葉の壁は乗り越えられます。伝えたいことに集中し、行動に移すことが大切だと思います。

映画『ズートピア』の歌詞にある「トライ・エヴリシング」というフレーズが私の宝物です。「失敗しても挑戦したい」という歌詞です。この曲を聴くたびに、たとえ理解されなくても挑戦することが大切だということを思い出します。

もしイギリスに留学する機会があれば、失敗を恐れずに、勇気を出して文化や生活様式について質問し、積極的に人とコミュニケーションを取りたいと思います。日本や沖縄の伝統や食べ物についても伝えていきたいです。上手に話せる必要はありません。いとこが教えてくれたことと、大好きな歌のフレーズを忘れないようにします。

失敗するかもしれないけど、絶対に挑戦します。

英国派遣交流及び視察研修

1 英国訪問のねらい

- (1) 北谷町の歴史と伝統を尊重し、次代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習慣を見聞し、本町の発展に寄与する。
- (2) 英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取り組みに資する。
- (3) 英国の中等学校生徒との交流を深めることで、将来の希望と抱負を持ち、自己を高める機会とする。

2 実施期日、目的地、訪問先等

- (1) 実施期日 2025年11月13日（木）～11月21日（金）
- (2) 目的地 英国ディーン・マグナスクール及びその近郊
グロスターシャー州 ミッチェルディーン

3 英国訪問団氏名

引率	北谷中学校	教諭	大城 直（おおしろ すなお）
引率	桑江中学校	教諭	大嶺 愛子（おおみね あいこ）
中学生	北谷中学校	3年	安里 朋華（あさと ともか）
	北谷中学校	3年	鈴木 玲彩（すずき れあ）
	北谷中学校	3年	田場 輝（たば ひかる）
	北谷中学校	3年	平田 桜（ひらた さくら）
	北谷中学校	3年	屋宜 葵（やぎ あおい）
	桑江中学校	3年	島袋 愛菜（しまぶくろ まな）
	桑江中学校	3年	桃原 英士（とうばる えいと）
	桑江中学校	3年	山城 麗亜（やましる れいあ）

4 緊急連絡先

北谷町教育委員会 電 話:098-982-7705
FAX:098-936-3491
北谷町立北谷中学校 電 話:098-936-3929
FAX:098-936-0171
北谷町立桑江中学校 電 話:098-936-2244
FAX:098-936-0172

5 交流校の連絡先

ディーン・マグナ・スクール(Dene Magna School)

住所: Abenhall Road, Mitcheldean, Gloucestershire, GL17 0DU

電話: +44 1594-542370 FAX: +44 1594-544862

校長: Mr. Declan Mooney (デ克蘭 ムーニー)

国際交流担当: Phoebe (フィービー) 先生、Fred (フレッド) 先生

6 現地旅行社連絡先

会社名: **Euro Creative Tours (U.K.) Ltd** 時間: 9:00-17:30(現地時間)

住所: 5th Floor, 133 Houndsditch, London EC3A 7BX, U.K.

電話: 020 7850 4401

* 在英国日本大使館・総領事館 *

住所: 101-104 Picadilly London W1J 7JT

電話: 0 2 0 - 7 4 6 5 - 6 5 0 0

受付時間 9:30-16:30(月～金)

FAX: 0 2 0 - 7 4 9 1 - 9 3 4 8

7 英国訪問の心得

(1) 基本的な心構え

- ① 健康・安全に十分気を付けましょう。
- ② 学校教育活動の一環ということを忘れず、身なり服装は華美にならないよう整え、言動にも気を配り、マナーを守りましょう。
- ③ 忘れ物がないように前日までに必ず準備しておきましょう。
- ④ 見学時間は厳守し、礼儀正しく、常に集合時刻、集合場所を確認してから行動しましょう。
- ⑤ 英国の学校との楽しい交流ができるように、よく事前学習をしておきましょう。
- ⑥ 毎日の様子が記録できるようにメモ帳を持っておきましょう。日記は毎日つけましょう。
- ⑦ 貴重品は、大切に保管しましょう。
- ⑧ 就寝時間、起床時間を守りましょう。

(2) 保健的な心得

- ① 衣服の調節に気を配りましょう。
- ② 寝冷え、暖房での乾燥に気を付けましょう。
- ③ 偏食せずなんでも食べるようにしましょう。
- ④ 飲み過ぎや食べ過ぎに気を付けましょう。
- ⑤ 水道水などの生水や、生ものは避けましょう。
- ⑥ 薬は普段使用しているものを持っていきましょう。

(3) 乗り物酔いについて

- ① 寝不足をさける。
- ② 乗り物酔いの先入観を捨てる。友達とおしゃべりしたりして気分転換を図る。
- ③ 空腹の状態で乗り物に乗らない。
- ④ 近くを見ないで、遠くの景色を見るようにする。
- ⑤ 気分が悪くなりかけたら寝る。

(4) 非常時の心得

- ① いかなる場合でも異常が発生したときには、引率者に速やかに連絡する。
- ② 慌てず、騒がず、落ち着いて添乗員及び引率者の指示に従って行動する。

8 スケジュール

11/13 Thu	沖縄～羽田
13:00 集合	那覇～羽田 JAL908/12:20-14:35 羽田にて前泊 ホテル東横 INN 羽田 1 号館
11/14 Fri	羽田～ヒースロー空港着～フォレストオブディーンへ
AM7:00 発	JAL043/09:50-15:15 (約 14 時間) ロンドン ヒースロー空港着 交流校のバスにてホテルへ ディーンマグナスクール近郊のホテルにて夕食&宿泊 「The Royal Hotel, Ross on Wye」 住所 Royal Parade, Ross-on-Wye, UK HR9 5HZ
11/15 Sat	ホストファミリー対面式・ファミリーデー
AM10:00 頃 全日	朝食後、ホテルでホストファミリーと顔合わせ ホストファミリーデー ●ホームステイ 1 日目
11/16 Sun	ロンドン市内へ視察研修
全日	マイクロバスにてロンドン市内へ。視察研修 (DMS 交流メンバー・引率者・ホストファミリー保護者含む) ●ホームステイ 2 日目
11/17 Mon	ディーン・マグナ・スクール (DMS)
全日	ディーンマグナスクールにて 1 歓迎会、学校ツアー、ホスト生徒と授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ&アフタヌーンティー 3 ホストファミリーとの時間 ●ホームステイ 3 日目
11/18 Tue	授業参加 (ディーン・マグナ・スクール) / チェプストー
午前 午後	1 授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 チェプストー城視察 ●ホームステイ 4 日目
11/19 Wed	ディーン・マグナ・スクール・小学校 / グロースター
午前 午後	1 授業参加、小学校訪問 2 ランチ 3 グロースター大聖堂見学へ ハリーポッターの撮影場所にもなったところ。 4 レストランにてお別れ会ディナー ●ホームステイ 5 日目
11/20 Thu	ヒースロー空港へ
午前 午後	1 オックスフォード視察 近郊にてランチ 2 ヒースロー空港へ 第 3 ターミナルにて搭乗手続き ロンドン～羽田 JAL044/18:30-17:20 ●機内泊
11/21 Fri	機内にて日付変更
午後	羽田～那覇 JAL925/20:00-22:40 1 時間遅れで那覇到着！お疲れ様でした♪



英国派遣を終えて

北谷中学校3年 安里 朋華

私は英国派遣を通してたくさんのことを学びました。特に、何かに挑戦するときは笑顔を忘れず、前向きな考えでいけば上手くいくということです。

私はイギリスに行く前、初めての海外だけど、たくさん英語で会話を、とにかく楽しもう！というワクワクと、伝わらなかったらどうしよう…という不安が半々でした。しかし、一緒に英国派遣に

行く8人の仲間のおかげで不安な気持ちは吹き飛びました。

いよいよ、ホストファミリーとご対面！この時はワクワクの方が大きかったです。ホストファミリーは会った瞬間、笑顔で私を迎え入れてくれて、とても安心しました。かばんを持ってくれたり、寒がっている私のために暖炉の火をつけてくれたりと、ホストファミリーの優しさが溢れた日々でした。1日目はパズルウッドに行きました。ホストマザーは「汚れるからこの靴を履いて」と気遣ってくれました。さらに、ホストファミリーとお揃いのニット帽を買ってくれました。ニット帽はホストファミリーの温かさでぽかぽかしていました。

2日目のロンドンでは、ホストファザーがダブルデッカーに乗ってビッグベンを見るという計画を立ててくれました。次の日のクリスマスマーケットではホストマザーが人生で初めての観覧車に乗せてくれました。観覧車のおかげで一気にホストファミリーとの仲が深まりました。次の日はホストファミリーの子とバス停まで歩いて行ったのですが、外は雪が降っていてとても綺麗でした。さらに雪が降ると、普段は雪合戦をしたり、スケートもできるそうです。学校ではおやつタイムがあり、何か食べる？と声をかけてくれました。ディーンマグナスクールの友達みんな優しくて、一緒にいて楽しかったです。夜は家族みんなでドラマを見たり、リビングでお昼寝をしたりして過ごしました。本当の家族になったように感じました。その日の夜、私はホストファミリー一人一人のために夜遅くまで手紙を書きました。手紙には、「今まで私に良くしてくれてありがとう」と感謝の気持ちを込めました。お別れの日の朝に手紙を渡すと、とても喜んでくれました。ホストファザーはいつも朝ご飯で作ってくれたクランペットをたくさんお土産にくれました。これで日本に帰っても、イギリスの朝ご飯を味わえます！

学校で本当のお別れをしました。最後までたくさん感謝を伝えて、ハグをしてを繰り返しました。私たちが乗ったバスが走り出しても、イギリスの友達は追いかけながら手を振ってくれました。お別れはとっても寂しかったです。



イギリスについて1日目までは寒いし、知らない場所での一人は辛くて、早く帰りたと思っていたけど、話が伝わらないことを恐れず、ポジティブにコミュニケーションを取り、皆とたくさんの思い出を作れたので、最後の日にはイギリスにいたいという気持ちになりました。

この経験は、大人になっても忘れられない大切な思い出になると思います。この英国派遣でのスピーチの時に私がみんなに伝えた「失敗を恐れず、挑戦をする」という言葉の実現ができました。それはイギリスで迎えてくれた心温かい人と、日本で支えてくれた人々のおかげだと思います。この経験は人生で一番最高の宝物になりました。支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

イギリス派遣を終えて

北谷中学校3年 鈴木 玲彩



私は、今回のイギリス派遣を通してたくさんのものを得ることができました。中学生という若さで海外留学に挑戦することは、とても不安で緊張しました。しかし、その不安以上に留学から得たものは大きかったです。

国境を越えた友情、今の自分の英語力、日本とイギリスの文化の違い、海外の良いところ、日本の良いところなど、本当にたくさんのことに気づきました。

その中でも特に私がこの留学を通して気づいたことは、その環境に入る大切さです。

私は小さい頃から英語を学んできました。だけど日本国内では実践の場も少なく、日常生活で常に英語を話していることなんてありません。だから、英語の伸びも少し遅いような気もしていました。しかし、イギリスでは町に飛び交う言葉も英語、メニューや説明書、もちろん自分に話しかけてくる時も英語です。初めはこの異次元のような世界に困惑しました。ですが、一週間この国で生きるには英語を話すしかありません。このように自分の選択肢から日本語が無くなるだけで、英語から逃げず、しっかりと向き合うことができます。そして私は失敗してもいいという気持ちでどんどん英語を使いました。伝わらないこともありましたが、翻訳機には頼らず、自分の言葉で伝えることを意識しました。すると、一週間という短い期間で聞き取る力、読む力、話す力すべてが格段にあがりました。

このような経験をして、やはりその環境に自分から入っていくことは本当に大切だと実感しました。

また、イギリスと日本それぞれの良いところも学ぶことができました。私のイギリスの好きなところは、常にみんな笑顔なところです。街中で少し目が合うだけで笑いかけてくれて、その一瞬でなんだか気分が明るくなります。

そして、今まで気づいていなかった日本の良いところもたくさんありました。特にトイレなどの公共のものがとても綺麗なことに気が付きました。それが普通に感じていたけれど、一日に何千人もの人が使うトイレが綺麗だということは、その全員が常に次の人のことを考えて使っているということです。それが当たり前でできる日本人の素晴らしさもこの留学があったから気づくことができました。

今までも、口では「視野を広げたい」と言っていたけれど、いざ日本から出てみると本当に違う世界で違う文化、違う言葉、想像しているより世界は広いのだということを自分で体験することができました。そこで出会った人や大切な経験は、私の人生に大きく影響し、一生忘れられないものとなるでしょう。

このイギリス留学という貴重な経験を自分のこれからの人生に繋げて、また更に視野を広げていきたいです。

そしてこれからも挑戦することを恐れず、自分のやりたいことにまっすぐ向き合うようにしていきたいです。





英国派遣を終えて

北谷中学校3年 田場 輝

私はこの英国派遣に行って気づいたことがあります。いつでも勇気や自信を持って行動するということです。

私は正直、イギリスに行くことが決まって不安に思っていました。英国に行っても勉強についていけるだろうか？食べ物は合うだろうか？そもそも自分の英語は通じるのだろうか？そんな不安がたくさんありました。しかし、この8人の派遣メンバーやホストファミリーのみんなのおかげで、そんな不安は消えました。

1日目は派遣メンバーと東京でサイゼリヤに行ったり、カードゲームをしたりして楽しく過ごし、仲が深まったように思います。2日目はイギリスへ行くための飛行機で14時間という長い時間を過ごし、3日目でついに念願のホストファミリーに会いました。ホストファミリーの皆さんは丁寧な話し方でわからない時はちゃんと教えてくれたりして、たくさんの優しさに感動しました。ちなみにこの3日目はクリスマスマーケットでショッピングをしたり、家の後ろにある森を散歩したりしたのですが、家も森も大きくて、野生の動物や木々、植物など日本とは違う生態系に衝撃を受けました。

4日目はみんなでロンドン観光、あまりにも沖縄とは違う景色に圧倒されました。ビッグベン、バッキンガム宮殿、衛兵、ダブルデッカー、アビーロードを巡りました。

5日目はディーンマグナススクールで授業を受けた後、パズルウッドに行って彫刻を楽しみました。イギリスの学校はやはり、日本と違い、何もかも大きくてとにかくすごかったです。家ではホットタブという、日本でいうところのお風呂に入ったり、初めてフィッシュアンドチップスを食べたりしました。

6日目はチェプストー城で古代の城跡を楽しみながら学び、7日目はグロスター大聖堂を見学しました。とても神秘的な所で感動しました。ハリーポッターの聖地にもなっているところです。8日目はイギリスのみんなとお別れ。別れる時はみんなで大号泣しました。僕も別れる時は寂しかったし、本当はもっとイギリスにいたかったです。そしてオックスフォード観光をして飛行機で日本に帰りました。



このように僕たちのイギリス派遣はあっという間に終わりました。初めての海外だったけど、これまでの自分の英語力を信じて、自信を持って話す。そしてわからない時ははっきり、わからないと言う勇気を持つこと。本当はこのイギリス派遣も受かると思わなかったけど、勇気を出して挑戦してみるとチャンスをつかむことができたので、この勇気を将来に向けて活かしていきたいです。



英国派遣を終えて

北谷中学校3年 平田 桜

11月13日から21日までの8日間、私たち8人はイギリスへ派遣されました。ハリーポッターの影響もあり、イギリスへ行くことがとても楽しみでしたが、ペアの子やホストファミリーと英語で話したりすることができるかという

不安もありました。羽田空港へ2時間半、ホテルで1泊し、翌日イギリスのヒースロー空港まで13時間ものフライトでした。13時間というフライトは経験がなく、とても長く感じました。寝ても寝ても時間は進まず、映画もたくさん観て何とか過ごしました。イギリスに着くととても寒く、白い息が出てとても興奮しました。ディーンマグナスchoolの先生と合流すると、バスで2時間ほど移動しました。移動中は疲れていてほとんど寝てしまいました。ホテルに着くと2人1部屋で荷物を置き、玄関には立派なシャンデリアやクリスマスツリーがあり、ここは日本ではないなと強く実感しました。ディナーは慣れない料理で、量もたくさんあり全て食べることはできませんでした。

イギリスに着いて2日目、念願のホストファミリーに会うことができました。ホストファミリーはとても温かく私を受け入れてくれ、リラックスして過ごすことができました。ホストファミリーでは「ボートン・オンザ・ウォーター」へ連れて行ってくれました。大きなクリスマスツリーが川の中から生えているのはとても不思議で幻想的でした。また、沖縄と違い、紅葉が見れたのは嬉しかったです。



2日目は首都、ロンドンへ行きました。ビッグベン、バッキンガム宮殿、キングスクロス駅に行き、移動手段は徒歩の他、2段バスに乗りました。キングスクロス駅は9と4分の3番線のある駅なので、ハリーポッター好きの私にとっては忘れられない思い出になりました。

3日目からは楽しみにしていたディーンマグナスchoolです。生徒と一緒に英語で授業を受けるのがとても面白かったです。ペアのイヴィに学校案内をしてもらったのですが、設備が豊富で、特に驚いたことは3Dプリンタがあったことです。アフタヌーンティーはエリザベス先生の手作りで美味しく、紅茶もポット丸々ひとつ分くらいは飲みました。放課後はイヴィとボードゲームをして遊んだり、愛犬メリーの散歩に森へ行きました。散歩中は日本とは全く違う景色を楽しむことができました。

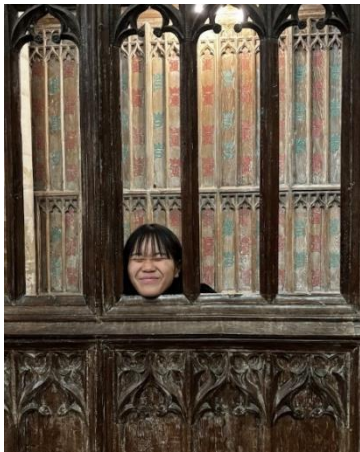
4日目午前は学校へ、午後にチェプストー城へ行きました。チェプストー城の造りが細かく美しかったため、最古のお城だと信じることはできませんでした。夜はメルトン家にお邪魔してポテリーペインティングをしました。アイデアがなかなか浮かばず、苦戦したけど興奮しました。また、4日目はプライマリースクールへ行き、「こんにちは」などの日本語で話しかけてくれる子もいて、心がほっこりしました。帰ってきてペアと合流した後はグロスター大聖堂へ行きました。途中でショッピングもして楽しむことができました。

5日目はホストファミリーとのお別れでした。感謝の気持ちを伝え、ハグしてさよならをしました。その後2時間くらいかけオックスフォードへ行きました。この頃にはもう買い物にも慣れ、英語でスムーズに購入できるようになっていました。

この英国派遣で得たことは、自分の考えを伝える力です。英語で伝わらなくてもどうにかジェスチャーで表現することができました。この経験は私の一生の思い出になると思います。また、イギリスにもう一度行きたいという気持ちをバネに英語の学習を頑張りたいと思いました。絶対にもう一度イギリスへ行きます。

英国派遣から学んだこと

北谷中学校 3年 屋宜 葵



私はこの英国派遣を通して、本当にたくさんのことを学び、有り余るほど大切なものが増えました。家族と9日間も離れることも、海外に行くことも初めてで、不安はあったもののたくさんの人からエールをもらい、見送ってもらいました。帰ってくる頃、自分はどれほどのことを学んでくれるのだろうと、ワクワクして手を振り返していました。東京からイギリス行きの約14時間のフライトはとても長かったけど、「本当にイギリスに向かっているんだ」というワクワク浮き立った気持ちを落ち着

着させるには十分な時間でした。

イギリスでは、日本では到底見ることのできない街並みが広がり、テレビでしか見たことのない歴史的建造物や映画ハリーポッターの世界が広がるとともに、飛行機で抑えたはずのワクワクでますます胸がいっぱいになりました。

初めてホストファミリーと会う日、ずっとメールでやり取りしていたけど、実際会うとなると緊張が止まりませんでした。でも、私の重い荷物を持ってくれたり、優しく話しかけてくれたりしてすぐ仲良くなりました。ですが、やっぱり最初は英語を聞き取ることが難しく、とても焦りました。でも徐々に、私が一生懸命伝えようとしているのと同じように、相手も私が伝えようとしている片言の英語を一生懸命聞き取ろうとしてくれることに気づき、落ち着いてジェスチャーも使いながら話せるようになりました。



ディーンマグナススクールに登校して驚いたのは、メイクやピアスをしてスマホを持っている生徒が多いということです。ですが、生徒たちは授業中、全員が先生の話を真面目に聞いていて、寝ている人や騒がしい人は誰一人いませんでした。日本との違いを感じて、とても衝撃を受けました。でもそれは、きっと生徒たちがしっかりメリハリをつけているから、メイクやピアスといった自由があるんだと思いました。そこが日本にはないイギリスの良い所だと思います。それと、もう一つ気づいたことがあります。それは、英語には「よろしくお願いします」という意味の言葉がないことです。観光バスに乗る前、お母さんに料理を作ってもらう前、日本ではよろしくお願いしますと伝えることができます。でも英語にはそのようなニュアンスの言葉がありません。だからこそ、日本では当たり前に使われているこの言葉は、日本の気配りが表れた素敵な言葉だということに気づくことができました。

私は、この英国派遣を通して、実際に行かなければ分からなかったイギリスの景色や文化、魅力的な点、そして改めてわかった日本の美点、日本食の尊さ、家族の温かさを感じることができました。イギリスで出会った友達や、本当の家族のように接してくれたホストファミリー、そして何より1週間familyとして支え合って過ごした、引率の先生も含めた9人の仲間たち。この事業に参加して、私は一生忘れられないたくさんの出会いと思い出を作ることができました。たくさんの人が私たちのために協力してくださったから、こんなにも貴重な経験をすることができました。この感謝の気持ちを忘れずに、今後も広い世界に目を向け、将来のために頑張っていきたいと思います。

英国派遣を終えて

桑江中学校3年 島袋 愛菜



私たちは11月13日から11月21日までの9日間北谷町の英国派遣団としてイギリスを訪れました。当日までは、「ホストファミリーとうまくコミュニケーションが取れるだろうか」という不安が拭えませんでした。しかし、皆と顔を合わせた瞬間、そうした心配は一気に吹き飛び期待と楽しい気持ちで胸がいっぱいになりました。

私が感じた1日目の印象は「個性の爆発」でした。事前学習では知ることのできなかった個性が溢れていて笑いの絶えない面白い時間となりました。みんなと英士の部屋に集まり、ねるねるねるねや人狼、黒ひげ危機一髪をしました。間違いなくこの派遣期間で一番盛り上がった日だと思います。盛り上がりすぎてその日の夜はあまり寝ることができませんでした。

2日目ついに地獄と言われている14時間フライトの日がやってきました。寝ても寝てもまだ着かずとても大変な機内だったことをとても覚えています。ヒースロー空港に着いた時には、ワクワクよりも「やっと着いた」と言う気持ちの方が大きかったです。また、イギリスは東京よりも倍寒く、この1週間は常に顎がガクガクと震えていました。



3日目、待ちに待ったドキドキのホストファミリーデーです。私はpuzzlewoodやグロスターへ行きました。puzzlewoodは動物がたくさんいて「森」を感じさせてくれるとても自然豊かな場所でした。グロスターは街並みが美しく、ところどころにあるイルミネーションがとても綺麗でした。そこで、アメリカおすすめの本屋さんを紹介してもらいました。家に帰り、その日はフィッシュ&チップスを食べ、眠りにつきました。

4日目、私が一番楽しみにしていたロンドン視察です。ロンドンで乗ったダブルデッカーでは、綺麗な街並みを間近で見れてとても嬉しかったです。ピカデリーサーカスを通った時の迫力は今でも忘れられません。また、ハイドパークで水鳥やリスを見た時は「ロンドンはこんなに自然豊かな場所なのか」と衝撃を受けました。この日は、ずっと目が輝いていたと思います。

5日目、今日から学校でした。DMSはとても広く、生徒もとても優しく、あまり緊張せずにどの授業も受けることができました。また、スナックタイムがあったことで私は「次の授業も頑張ろう」と思うことができました。日本の学校にもぜひ導入してほしいです。夜はローストビーフを食べにレストランへ行きました。本場のローストビーフはとても美味しかったです。この日はスナックタイムの素晴らしさに気づいた日となりました。

6日目、今日はDMSで授業を受ける最後の日でした。家庭科では大きなピザを作り、音楽ではチームのメンバーでキーボードを演奏しました。どの授業でも友達ができてとても嬉しかったです。午後はチェプストー城へ行きました。バスの中で騒ぎすぎて注意されたのも良い思い出です。最古の城ということもあり、迫力がすごかったです。解説がわかりやすく、チェプストー城についてたくさん知ることができました。

7日目、この日は初雪でした。屋根や地面に少し積もっていてとても感激しました。また、訪問先の小学生が歌を披露してくれて嬉しかったです。その後はグロスター大聖堂に行きました。他のホストファミリーともたくさんしゃべることができてとても嬉しく、フェアウェルディナーのピザはとても美味しかったです。この日にアメリカと家で作ったジンジャーブレッドハウスは初めての割には上出来で、とても満足した気持ちになりました。

8日目、DMSでお別れをした時は、笑顔でお別れをすると心の中で決めていましたが、泣いてしまいました。アメリカが日本語で手紙を書いてくれてとても嬉しかったです。その後はオックスフォードへ観光に行きました。自然史博物館には、恐竜の化石があり、すごい迫力でした。また、抵抗なく店員さんと英語を喋れるようになっていて成長をとても感じました。空港について、ついに先生方ともお別れです。もう帰るのかととても寂しい気持ちになりました。帰りの飛行機は本当にあっという間でした。沖縄に着いた時ほっとした気持ちもありましたが、またイギリスに行きたいという気持ちがとても大きかったです。私はこの英国派遣で自分から挑戦する力を身につけることができました。このような素晴らしい経験をサポートしてくれた両親、教育委員会の方々、そして引率の先生方、派遣団のメンバーには感謝の気持ちでいっぱいです。北谷町に恩返しができるようこれからも英語の勉強を頑張りたいと思います。

英国派遣を振り返って

桑江中学校3年 桃原英士



私たちは今年、英国派遣団として11月13日から9日間英国のディーンマグナススクールを訪れました。イギリスまでのフライト時間は東京を経由して約14時間でした。

そのフライトの間、流れ星や北極大陸が見えました。そしてヒースロー空港に到着し、この日はホテルに宿泊しました。3日目からは、ホストファミリーと共に1日を過ごしました。最初は緊張して英語が通じるかが不安でしたが、通じなかった時はホストファミリーがサポートしてくれたので安心しました。この日はホストファミリー宅の近所を散歩した

後、ハイナンコートという牧場のような場所を訪れました。そこには白鳥や馬、牛などがいたので驚きました。その後はグロスターのクリスマスマーケットを訪れました。やはり予想通りイングランドではすでにクリスマスの装飾が色々な場所にありました。例えばクリスマスツリーのライトアップやパレードなどが行われていました。

4日目は、私が楽しみにしていたホストファミリーと共に行くロンドン視察です。ロンドンまでは約3時間かかり、ロンドンの街並みを通り過ぎた後、ビックベンの前で降車し、写真を撮りました。ロンドンやグロスターは歴史的な建造物が数多くあり、まるでハリーポッターをイメージするような感じでした。建造物は主にレンガを使って建築されているのが多いことがわかりました。ビックベンで写真撮影をした後、私は一度は見てみたかったバッキンガム宮殿を訪れました。そこはとても人が多くて何かイベントがあるのかと思っていました。そして正門の近くに来た時に、近衛兵たちが宮殿の中に入っていく様子を見ることができました。

5日目からはディーンマグナススクールの授業に参加しました。その中でも一番驚いたことは朝読書が英国でもあったことです。初日は授業内容が理解できませんでしたが、日を重ねていくうちに徐々に理解できるようになってきました。授業には日本にはないフランス語、スペイン語の授業などがありました。そして私はホストファミリーの友達と仲良くなることができました。そのおかげで現地の生徒たちと卓球対決をすることができ、英国の人たちはとても話しやすく、親しみやすかったです。現地の生徒は授業と休み時間のメリハリが全員ついていることが今回の派遣でわかりました。また機能面では自動ドアやカフェテリア、テニスコートなど日本の学校では見ることが少ないものがたくさんあったので驚きました。そのため朝早くからテニスコートなどで遊んでいる生徒もいました。初日の放課後はクリスマスガーデンに行き、様々なイルミネーションを見ることができました。

6日目の夜には家族とけん玉チャレンジしたり、エイサーの動画を見てもらったりしました。どれも喜んでくれて良かったです。

7日目の最終日はフェアウェルディナーで、グロスターで皆と最後のディナーを共にしました。そして翌朝、遂に6日間お世話になったホストファミリーとお別れをしました。私は彼らと深い握手を交わし、スクールを出発しました。私は来年の7月にまた彼らと会えることを楽しみにしています。

今回の派遣では異国の文化に触れ、英語を学ぶ重要性や現地の人々とコミュニケーションを取ることについて学習できました。これからは今回の経験を活かして将来の夢であるパイロットになるために、英語や世界各国について学んでみたいと思った派遣でした。もし高校生になってこのような機会があったらぜひ参加してみたいです。最後に、このチャンスを与えてくださった関係者の皆さん、今回の派遣に参加できたことを大変嬉しく思います。本当にありがとうございました。





Lovely Lovely Blast

桑江中学校3年 山城 麗亜

11月13日から11月21日までの9日間、私たち8人はイギリスへ派遣されました。海外は初めてで、初海外が歴史的な街並みが綺麗なヨーロッパということもあり、ワクワクで胸がいっぱいでした。1日目は東京で前泊し、その次の日ヒースロー空港へ14時間かけて行きました。14時間のフライトは寝ても映画を

何本も観ても終わらない長いフライトでした。イギリスについての瞬間、沖縄では体験できない寒さで歯がガクガク震え、思い出すだけで体が寒くなりそうなほどでした。

3日目からはドキドキのホストファミリーdayが始まりました。私とレスティンはグロスター周辺を散歩しました。街並みがとても綺麗でドラマのワンシーンのようでした。その日のディナーはEnglish pubでハンバーガーを食べました。ハンバーガーが規格外すぎるボリュームで驚きました。

4日目は、みんなが楽しみに待っていたロンドン観光です！グロスターから約3時間かけてロンドンに行きました。ビッグベンやロンドン・アイ、ビートルズのアビーロードなど、沖縄で見ることのできないものをたくさん見ました。屋根がないロンドンバスに乗って街を視察したのもとても楽しかったです。

5日目は、楽しみでもあり不安でもあったDMSへ登校する日です。でも学校へ登校するとみんな優しく声をかけてくれたり、たくさん質問してくれたりと温かい人たちでいっぱいでした。授業では日本にはないドラマやスパニッシュ・フレンチの授業があり、楽しかったです。夜にはレスティンの海兵士官候補生の練習を見学しました。敬礼がすごくカッコよくて、目の前でみるのがとても新鮮でした。

6日目は、学校で体育の授業を受けました。日本の体育よりも倍以上ハードな授業で全身筋肉痛になりそうだったのをいまだに覚えています。その後はチェプストー城へ行きました。チェプストー城は思ったよりも大きく、ヨーロッパ最古のお城というのもあり、すごく迫力満点でした。フレッド先生とフィービー先生の解説を聞き、歴史的背景を学ぶことができました。

7日目は、なんと初雪の日でした！私とレスティン、さくらとイーヴィーの4人で雪合戦をして朝からとても楽しかったです。その後プライマリースクールへ行きました。歌のプレゼントやイラストのプレゼントをしてくれて、本当に嬉しかったです。夜はフェアウェルディナーでした。みんなでピザを食べて、最後にみんなでご飯を食べることができて嬉しかったです。

8日目はもう最終日で、お別れの日。朝からみんなしんみりしていて、空港行きのバスへ誰も乗ろうとせず、みんな大号泣でした。その後はオックスフォード観光をして、大学を見学したり、自然歴史博物館へ行きました。いろんな歴史的な作品を見ることができました。空港に着くと先生方ともお別れでたくさんハグしました。帰りの飛行機はあっという間に沖縄へ着き、家族と会えて安心感もあったけど、少し寂しさと「またイギリスへ行きたい！」とも思いました。

この英国派遣を経て、言語はもちろん、日本・沖縄とは違う文化や風景、気温や建造物を肌身で感じ、「世界は自分が思っているよりも広いんだな」と思いました。この経験を活かし、イギリス以外の国にも行ってみたいと思ったし、自分が体験したことをいろんな人たちに発信して、世界へ飛び出すことの楽しさというものを知って欲しいです。また、私たちが発信したことがきっかけで世界へ飛び出す人たちがいい経験ができれば嬉しいです。これからも、様々な国へ飛び出したいです。また、支えてくれたたくさんの方々にもとても感謝しています。





派遣に向けて頑張ったこと、後輩へのアドバイス



・会話が上手くいくまでは不安だったけど、元気に返事をしてあげれば大丈夫！とりあえず元気に笑顔で過ごしましょう。
(朋華)

・派遣に向けて英語力アップに力を入れました。
・来年行く人は体調悪くなったとき用にインスタント味噌汁を持っていくことをお勧めします！
(玲彩)

・英語力を上げること。
・会話を練習！そのために単語をたくさん学ぶ！
(輝)

・英語に慣れること。
・外国はお菓子の香が強かったりするから自分用のお菓子を日本から持って行った方がよい。
(桜)

・夏休み期間、毎日学校に行ってたたくさんスピーチの練習をした。
・英語力を上げる！
(愛菜)

・スピーチコンテストと、派遣に向けて英語力を上げる事を頑張りました。
・たくさんの人々と出会えて、色々なことを学べて最高の経験でした！と伝えたい。
(葵)

・イギリス英語の単語の勉強とリスニング練習
・英会話の練習
・日本食を何か持って行った方がいい（自分用）
・イギリスで紅茶は絶対飲んだ方がいい！
(麗亜)

・英語の能力を上げた。
・英国の文化について調べた
(英士)



イギリスの印象、感じたこと

・1日に何回も紅茶を飲む
・とにかく寒い
・みんな優しい

・レンガ造りの建造物が多かったこと
・とても寒い
・商業施設の天井が高い



・寒すぎる！
・どこを見ても映画のワンシーン
・みんな親切
・食べ物がボリュームミー
・みんな個性的

・学校で寝たり騒いでいる人がいないこと
・日本と比べられないくらい寒い
・学校でピアスやメイクは自由

・街がハリーポッターみたいでした。
・みんな笑顔で明るい印象でした！

・のどか
・日本と共通点が多いと思った
・寒い！

・イギリスは紳士的な人が多くて、優しい人がたくさんいました。
・遺産がとても多く感動しました！

・とても寒くて街並みが素晴らしい
・家がとってもかわいい！



DMSについて、日本の学校との違い、面白かった授業など

- ・おやつタイムがあって、好きなパンなどが食べられる！
- ・体育が筋トレっぽくてきつかったけど、みんな本気だった



- ・スペイン語の授業
- ・3校時前に軽食を食べれる。



- ・フランス語やスペイン語の授業
- ・ドラマの授業
- ・ブレイクタイムがある

- ・寝ている人がいない
- ・フランス語やスペイン語の授業
- ・スナックタイムがある！！
- ・自動ドア
- ・数学は計算機を使う
- ・体育は very hard



- ・初めてスペイン語の授業を受けて楽しかったです。

- ・整備が最新で豊富
- ・何事にもメリハリが強い
- ・男女仲良し
- ・ゴミのポイ捨ては少し多い



- ・棟が分かれていた
- ・かばんを持って移動
- ・ドラマ、フランス語の授業がある
- ・ブレイクファストタイムがある
- ・イギリスの先生が意外と厳しい



- ・演劇、スペイン語の授業
- ・休み時間は自由過ぎていて騒がしいけど、授業とのメリハリがすごかった
- ・自動ドアや指紋を活用していた





朋華

- ・人と話すことを怖がらず、前向きに積極的に頑張った！
- ・この経験を通して、不可能な事でも一生懸命挑戦したら、最後には可能にできることを知った。
- ・何があってもポジティブに頑張ることが大事！

玲彩

- ・この経験を活かしてこれからもやりたいことに挑戦していきたいです。
- ・世界がとても広いことを実感できて、良い経験になりました。

桜

- ・自分の気持ちを伝える力を得ることができた。
- ・英語の学習に力を入れて、イギリスにもう一度行きたいと思った。
- ・笑顔や、はっきりと返事をする大切さを知った。

葵

- ・コミュニケーション能力が上がった。
- ・海外にも日本にもたくさんの仲間ができた。
- ・世界の広さと、沖縄にはない魅力、沖縄の魅力を知ることができた。
- ・CAになりたいという目標が明確になった。

愛菜

- ・コミュニケーション力が上がった。
- ・英語を使った仕事につきたい。
- ・笑顔で乗りこえる！

英士

- ・将来の夢に向けて世界への視野を広げていきたい。
- ・英語の能力をさらに上げていきたい。
- ・コミュニケーション能力をさらに高めていきたい。

麗亜

- ・文化の違いや気温、風景の違いに触れて、価値観が変わったし、視野が広がった。
- ・イギリス以外の国にも行って、色々な文化、風景の違いを楽しみたいと思った。
- ・これまで英語の勉強をしてきて本当に良かったなと思ったし、英語力も伸びて参加して本当に良かった。
- ・支えてくれた方々に感謝しかないし、自分の体験をいろんな人たちに広めていきたい。



令和7年12月11日

北谷町立北谷中学校

教諭 大城 直

1. はじめに

令和7年11月13日（木）から同月21日（金）までの9日間、北谷町英国派遣交流事業の引率教諭として、派遣代表生徒8名とともに、英国を訪問しました。

私にとって、英国訪問は初めてとなり、とても貴重な派遣となりました。

本事業は、北谷町が主催し、コロナ禍を挟み、2001年から継続して行われています。

今年度においても、6月28日から7月4日の間、ディーンマグナススクール（DMS）の職員・生徒の派遣団が来町し、交流を図りました。各中学校での交流だけでなく、ホストファミリーとして各家庭での交流もありました。北谷中学校の3年生は、1学年の頃から各クラスでの交流があり、英国派遣へ選ばれることを熱望する生徒が多くいました。その中、8月の夏休み明けに行われた第25回北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストでは、審査委員の先生方から、「レベルの高いコンテスト」だと講評を頂きました。

今回の派遣生徒は、全員が3年生で、北谷中学校から5名、桑江中学校から3名、計8名（各校校長推薦2名、コンテスト上位者4名）となり、引率教諭2名の派遣団となり、英国訪問となりました。

2. 訪問先

英国 グロスターシャー州 ミッチェルディーン（Mitcheldean, Gloucestershire）

訪問校：ディーンマグナススクール（Dene Magna School）

3. 主な体験・活動内容

①英国までの道のり

沖縄から東京へ飛び、東京で一泊しました。空港で夕食をとる予定でしたが、到着が15時台だったため、移動してから夕食をとることにしました。

羽田空港からホテルへの無料のシャトルバスがありましたが、夕方のバスが18時からしかなかったため、急遽電車で移動しました。京急線で羽田空港第1・第2ターミナルから乗車し、4駅の大鳥居駅で下車後、徒歩数分の所でした。

ホテルにチェックイン後、各自部屋に荷物を置きロビーに集合し、片道徒歩約20分のサイゼリヤまで行き、夕食。空港よりもリーズナブルに食事ができました。食後、ホテルへの帰り道では、100円ショップに寄ったり、コンビニに寄ることができました。

翌朝は6時から朝食をとり、7時のシャトルバスで、羽田空港第3ターミナル（国際線）へ移動しました。



②東京からロンドンヒースロー空港

約 14 時間のフライトとなりました。生徒は映画を見たり、仮眠をとるなどして、過ごしていました。

ヒースローに到着し、無事に入国し英国の地を踏むことができました。空港では、今回の派遣でとてもお世話になったフィービー (Ms Phoebe) 先生とフレッド (Mr Fred) 先生が出迎えてくれました。そこから Ross-on-why という町にある The Royal Hotel まで送ってもらいました。私たちが到着した日は嵐があったようで、雨の影響で、迎えの到着が遅れたようでした。

ホテルでは、夕食が出ましたが、疲れからか、なかなか食べきれない生徒もいました。



③ホストファミリーと対面

3 日目の朝、朝食後、10 時頃から各生徒を受け入れてくれるホストファミリーがホテルまで迎えに来てくれました。ホストファミリーを待ちわびる気持ちで外の様子に目を向ける生徒もいました。



引率教諭は、フィービー先生の案内で、ウェールズ (Wales) の



首府カーディフ (Cardiff) まで足を運びました。カーディフマーケットで昼食をとり、カーディフ城やクリスマスマーケットを見たりして楽しみました。そして夕方にはラグビーのウェールズ対日本代表の試合観戦をしました。周りの地元の観客の応援、盛り上がりがすごかったです。

④ロンドン観光

4 日目は朝早く、DMS に集合し、ホストファミリーも一緒にバスでロンドンに向かいました。観光スタートはビッグベン。ビッグベンからそれぞれの家族で市内観光に出かけました。私たち引率教諭は、フレッド先生の案内で、サウスバンクエリアをテムズ川沿いに案内してもらいました。ロンドンアイ、ロンドンブリッジなど、写真や映画でみる建造物等を実際に目にすることができ、気分も盛り上がりました。幸か不幸か、雨は降りませんでした。



⑤DMS 登校・授業見学

5 日目は生徒がホストファミリーの生徒と一緒に登校。図書館に集合し、校長のデクラン先生 (Mr Declan Mooney) 先生が生徒に挨拶をしてくれました。

生徒は授業と一緒に参加し、引率教諭はフレッド先生の授業に参加させていただきました。3 校時目には、DMS の生徒 8 名 (ホストファミリーの生徒・次年度 7 月に来町予定) が歓迎のあ



いさつをし、北谷町の派遣団 8 名が自己紹介を兼ねた沖縄の紹介を行いました。

午後は去った 7 月に来町したエリザベス (Ms Elizabeth) 先生が用意してくれたアフタヌーンティーを楽しみました。DMS の生徒からもとても評判のブラウニーもいただきました。評判どおりとてもおいしかったです。



⑥Sixth Form と Chepstow



6 日目の午前中、生徒は DMS で授業を受け、引率教諭はフィービー先生と Sixth Form へ行き見学。進路や資格に関する掲示物等があり、意識付けなどの工夫が見られました。また、図書館では、LEGO や日本のマンガなどがあり、リラックスできる雰囲気でした。

午後は生徒と合流しチェプストー城を見学に訪れました。日本とは違う城の様子が見られました。古い建物に触れることで、過去の情景やその時代の息づ

かいを思い浮かべました。



⑦Primary school と Gloucester



7 日目の午前中は、系列校の小学校に訪問しました。4 つのハウスリーダー 4 名がクラスを案内してくれました。歌を歌い歓迎してもらった場面もありました。訪問団の 8 名も自己紹介と沖縄紹介をスライドを使い、行うことができました。

午後はホストファミリーの生徒も一緒にグロスター聖堂の見学に行きました。この聖堂の廊下は、映画「Harry Potter」のロケ地にもなっているところです。建築様式やステンドグラスなど、目を引くものばかりでした。

夕方は farewell dinner を楽しみました。



⑧別れと Oxford

8 日目、最終日。朝、ホストファミリーと涙を流しながら、来年 7 月の再会の約束を交わす様子も見られました。名残惜しそうにバスを追いかける生徒もいました。移動の車内では、本派遣団の生徒も涙を流していました。





その後オクスフォードの街へ移動し、フィービー先生とフレッド先生の案内で街中を散策し、博物館に行きました。博物館では、展示物やその説明をメモにとる学生の様子も見られました。展示物では、触れることのできる熊のはく製があったりと、いろいろな生物の展示がありました。博物館のあと昼食をとり、ヒースロー空港へ向かいました。

空港に到着後、DMSの学校車でフレッド先生と別れ、チェックイン後フィービー先生と別れました。来年7月の再会が楽しみです。

日本への飛行ルートは、南回りで中国上空を飛行しました。機内では行きと同じように映画鑑賞や仮眠をとるなどし、過ごしました。

東京到着後、国内線へと乗り換えるため、第1ターミナルへ移動し、保安検査場を通った後、軽く夕食をとりました。

沖縄へは12時頃になりましたが、無事に到着し、全日程を終えることができました。



4. DMSの学校の様子

①参加した授業の様子

基本的に教科書はなく、スライドを使い教師が説明。その後プリントに記入、練習問題といった形の授業でした。私たちが教科によって、ファイルの色を分けているように、DMSでは、ノートの表紙の色が異なっていました。寝ている生徒は見られず、積極的に手を挙げ、発言する様子が見られました。教師があてなくても、手を挙げていました。

廊下にはいろいろな掲示物がありました。英語の教室前の掲示物では、各学年のそれぞれの学期の目標が分かるような工夫が見られました。沖縄への訪問の写真、フランスや他国への研修の写真なども見られました。



②学校のシステム

DMSでは午前中に1時間の授業が3コマ、午後に2コマというタイムテーブルです。午前中の2コマ目と3コマ目の休み時間は少し長めに取られており、スナックタイムと呼ばれ、スナックや飲み物などの軽食をとる時間となっていました。ランチタイムでも使用するカフェテリアは、集会でも使うホールになっており、折り畳みのテーブルが並べられています。そこには売店があり、そこで購入したりする生徒もいました。学年、男女問わず、みんなが入り混じって座り、それぞれにランチを楽しむ様子が見られました。外にもベンチ等があり、そこで過ごす生徒もいました。



③4つのハウス

4つのグループがあり、生徒はそれぞれのグループに属していました。ハウスコンペティションがあり、表彰もあるそうです。デクラン先生に尋ねたところ、卒業までそのグループを変わること

はないそうです。兄弟がいたり、入学時に小学校からの様子で配慮したりするそうです。この4つのグループはそれぞれ担当の教師がついているそうです。



5. 生徒の様子や変容

8月のスピーチ・カンバセーションコンテストに向け、夏休み前から校内でオーディションを行い、コンテスト出場生徒の選考を行いました。その頃から生徒の意識も高く、選考に悩むほどでした。夏休みの間、何度か本校のALTの先生とスピーチの原稿チェック、カンバセーションの練習等を行い、本番に臨みました。派遣が決定した後は、週に1度、英会話の練習を行うなど、英国へ派遣される前から取り組んできました。

英国に行き、派遣前から連絡を取り合っていたホストファミリーと対面した際は、とてもうれしそうに、また期待を胸に笑顔で挨拶する様子が見られました。ステイ先の家庭内だけでなく、DMSでの学校生活を通して、たくさんの会話をしていました。帰国してからは、さらに自信を持ち、英語の授業でのパフォーマンステストでも積極的に取り組む様子が見られました。間違いを恐れずに伝えるという勇気が持てたかと思います。ホームステイという形で家庭に入ること、人とのつながりも持つことができ、生徒にとって心の成長が図れた経験になったと感じています。



6. 終わりに

今回の派遣を通して、「百聞は一見にしかず」という言葉をあらためて実感いたしました。日本、特に沖

縄とは異なる建築や文化に直接触れ、貴重な学びと経験を得ることができたことを大変嬉しく思います。

本事業を、コロナ禍を挟みながらも継続してくださっている北谷町長をはじめ、教育長、そして派遣生徒のみならず私たち引率教諭に対しても多大なるご支援を賜りました学校教育課の河上様、嘉陽田様に心より御礼申し上げます。さらに、DMSにてご支援いただいたフィービー先生、フレッド先生、マーク先生、並びに渡英から帰国までの各種手配にご尽力いただいたリウボウ旅行サービスの友利様にも重ねて感謝申し上げます。

本事業が今後も継続し、DMSとの交流が一層発展することを心より祈念しております。

令和7年度 英国派遣帰国報告書

北谷町立 桑江中学校

教諭 大嶺 愛子

はじめに

令和7年11月13日(木)～21日(金)の9日間、北谷町英国派遣交流事業の引率者として英国を訪問し、大変有意義な経験をさせて頂きました。北谷中学校の大城直先生と共に、派遣された生徒たちが交流事業の目的や心得を忘れず笑顔で帰ってくる事ができるよう協力し、実際に生徒たちが大きな怪我や病気もなく帰国できて大変ほっとしました。以下、派遣期間の様子と成果を報告いたします。

英国派遣への道のり

派遣されたのは、北谷町スピーチ・カンパセーションコンテストで優秀な成績をおさめた生徒、三線など沖縄の伝統文化を身につけている生徒、そして1年越しの夢を叶えた生徒たちでした。事前学習に参加し、どんな目的で英国へ行くのか理解を深めながら準備をしてきました。那覇空港集合の時から時間に遅れる生徒もおらず、飛行機の座席やホテルの部屋割りも誰一人不平不満を言わず、何より笑顔が絶えない素直で素敵な生徒たちでした。



長時間のフライトと雨のイギリス

羽田空港より約14時間のフライトを経て、ヒースロー空港へ到着しました。北谷町も多国籍な雰囲気がありますが、ヒースロー空港ではさらに広い世界からの人々がいるように感じました。到着した金曜日、イギリスでは洪水や大雨の影響で道が渋滞していたそうで、フレッド先生とフィービー先生は学校車に乗って往復6時間ほどかけて私たちを宿泊するホテルへ送迎してくださいました。夕方早くから既に暗く、雨も降っていたので車内から外の様子はほとんど見えませんでした。生徒たちはとても疲れていたと思いますが、お迎えに来た先生方やホテルで歓迎してくださったムーニー校長先生にも笑顔で挨拶していました。夕食をいただき、次の日の確認をして長かった1日を終えました。

ホストファミリーとの週末

土曜日の朝食時、写真のないメニューを読んで、自分が食べたいものを一生懸命注文する姿から、英語の教科書にある「レストランでの注文」の授業を思い出しました。学んだことを実践している様子が見られてとても誇らしく思いました。その後ホストファミリーが次々とお迎えに来て、どの家族も笑顔で、和やかな雰囲気で出かけていきました。引率の私たちは、フィービー先生がウェールズのカーディフというところに連れて行ってくださり、ウェールズ対日本のラグビーの試合を観戦しました。試合の前にお城など見学しましたが、街は試合への熱気で大変な盛り上がりでした。スタジアムには赤ちゃん(耳には防音のためにヘッドフォンが)からお年寄りまで集まっており、その地元愛と誇りはうちな一魂に通じるものを感じました。実際、ウェールズにはウェールズ

語があるそうで、共通点があるかもしれないと思いました。日曜日は、早朝から DMS で待ち合わせをしてホストファミリーと一緒にロンドン視察研修をしました。曇り空でしたが雨は降らず、生徒たちはそれぞれの家族と楽しく過ごしました。この日はフレッド先生が引率の私たちを案内してくださり、テムズ川に沿って歩きました。ロンドンには近代的な建物もありましたが、古い建物がしっかり残っていて、英国で印象に残ったことの 1 つである「古いものに価値がある・古いものを大切にする」という価値観を実感しました。「英国派遣交流の目的」の(1)には「北谷町の歴史と伝統を尊重し...外国の文化や習慣を見聞...。」とありますが私自身の英国での気づきを基に、さらに北谷町に関しても古い歴史や伝統を尊重し学び続けたいと思います。

DMS (ディーンマグナススクール) にて

月曜日からは DMS での授業参加・交流の開始でした。校内に入るには暗証番号やカードなど必要な様子で、セキュリティがしっかりしていました。引率の私たちは校内及び授業を見学させてもらいましたが、DMS の生徒たち・先生方は交流事業の私たちがいても普段通りの姿勢で授業に臨んでいるのがわかりました。授業に関する発言が活発で、教師に当てられるまで手を挙げて静かに待つ生徒が複数いました。外国語のクラスでは、授業の終わりにグループ対抗の活動をして早い順に教室を出る、という工夫がされており楽しそうに活動していました。教科の建物や教室があり、掲示物が充実していて、学んでいることが生徒自身の実生活にどのように役立つのか明確でわかりやすく、大変勉強になりました。DMS の生徒たちは親しみやすく、以前に交流事業で北谷町に来たことのある生徒や先生方も頻繁に挨拶してくれました。ホストファミリーのペアと登校した派遣団の生徒たちは、ペアと共に各自授業を受けました。

派遣団の生徒たちは、事前学習に通って準備してきたプレゼンテーションを DMS の生徒の前で披露し、緊張感は頂点に達していたと思います。温かい拍手を受けた後、家庭科室でペアの生徒とアフタヌーンティーのおもてなしを受ける頃にはリラックスして笑顔が増えていました。その後、授業に戻りノートを取る派遣団の姿は真剣そのものでした。

今回、私たち派遣団と多くの時間を共にしてくださったフレッド先生とフィービー先生は学校だけでなく様々な見学地でも、引率及び生徒たちに説明をしてくださいました。そして、フレッド先生が 8 名の生徒たちを集め輪になって、今回の英国での様子や北谷町を訪問する自分たちへのアドバイスなど丁寧に聞き取りをしている様子は小さな「クラス会議」にも見えました。生徒たちは、一生懸命に英語で話していました。DMS では特に「英国派遣交流の目的(2)(3)」を意識する時間となりました。

私たちの変化

同じ北谷町内でも違う学校に通う 8 名の生徒たち(引率 2 名も)は、初回の事前学習会ではまだお互いのことを完全には知りませんでした。引率としては、とにかく自分が体調を崩さず、生徒たちも健康で安全に過ごし、交流事業の目的を心に留めて無事に北谷町に帰ることで頭がいっぱいでした。派遣団の全員が長距離の移動や時差による疲れも経験しました。しかし、派遣期間を通して私たちは共に美しいものを見て感動し、時々聞こえる鐘の音に耳をすませ、美味しいものを分かち合い、季節を感じ、特別な仲間意識を育みました。派遣団の生徒とホストファミリーのペアも、やがて顔を寄せ合って写真を撮るようになりお別れの朝はたくさん泣いていました。今回の交流事業に参加する機会を与えて頂いたことに心から感謝しています。個人的には DMS で得た学び以外に英国の人々の親しみやすい人柄、古いものを大切にする価値観が大変印象に残りました。桑江中

学校へ戻り、担当している 2 学年の授業の中で今回の経験を写真付きで伝えると、すでに次年度へ向けて興味関心を示す生徒が複数います。また、派遣された先輩たちが英語漬けの毎日だったことに驚いている生徒もいました。1 人でも多くの在校生がこの交流事業の目的を理解し、スピーチ・カンバセーションコンテストにもチャレンジし、派遣の機会を得て英国へ渡ってほしいと願います。

目的（１）「北谷町の歴史と伝統を尊重し、時代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習慣を見聞し、本町の発展に寄与する。」

目的（２）「英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取り組みに資する。」

目的（３）「英国の中等学校生徒との交流を深めることにより、将来の希望と抱負をもち、自己を高める機会とする。」



終わりに

英国と北谷町、両方の理解とサポートがなければ私たちは無事に行って帰ることはできませんでした。交流事業のために長い時間をかけて調整を重ねてこられた北谷町教育委員会の皆様、DMS の先生方、生徒の人数確認をしながら共に引率をした北谷中の大城先生、生徒たちの家族やホストファミリー、桑江中から送り出してくれた校長先生はじめ同僚の先生方、この機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

事前学習の様子～北谷の歴史を学ぶ～



朋華さんが代表あいさつをしてくれました



14時間のフライトにドキドキわくわくたん！

11.13



イギリスに到着♪白い息に感動！

11.14



伝統のイングリッシュブレックファスト♪



11.15 Host Family Day



それぞれのホストファミリーと過ごしました。



11.16

LONDON TRIP



念願のダブルデッカー(しかも屋根なし！)





ディーンマグナスクール初登校

11.17



アフタヌーンティー



11.18



初雪が降りました!



チェpstow城

～英国最古の石の要塞～



小学校訪問



ふむふむ...





グロスター大聖堂へ

11.19



11.20



オックスフォード訪問



11.21

無事帰国しました!



12.11

帰国報告会

AOI & MIA'S Family



MANA & AMELIE'S FAMILY

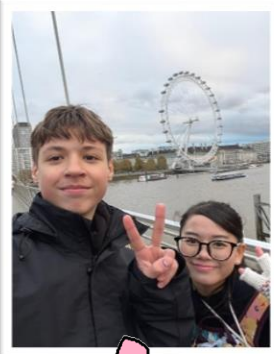




EITO & KAI'S FAMILY



Reia & Lestyn's Family





Tomoka & Penelope's Family



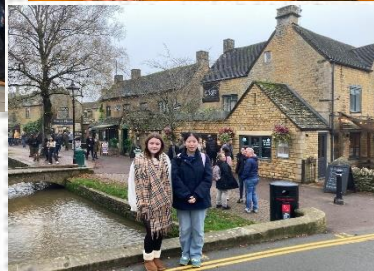
Rea & Ellie's Family



Hikaru & Kynon's Family



SAKURA & EVIE'S FAMILY



25th

English Speech and Conversation Contest

スピーチの部



カンバセーションの部

This year's topic:

「Traditional Okinawan culture (events, festivals, food, etc.) that I like!」



昨年度派遣生の
英国派遣報告



結果発表&講評

今年もハイレベルでした



表彰式



派遣決定おめでとうございます！



2025年度 英国訪問団受入の様子

R7.6.27~R7.7.5



桑江中訪問



北谷中訪問



シーサー作り



浜川小訪問



送別会



みんな大好きちーたと

2025 ディーン・マグナ・スクール受入スケジュール

1. 訪問者: 引率者2名(女2)中学生8名(男4、女4)
2. 訪問期間: 2025/6/27(金)～7/5(金) 6泊7日
3. 宿泊: ラジェントホテル、ホームステイ



日付		時間	場所	内容	宿泊	食事 ★はホスト宅で	
6/27	金	13:15	那覇	那覇空港到着 JL913 13:15着	引率: ホテル 生徒: ホテル	生徒	引率
		15:00	北谷	教育委員会のバスでホテルへ ホテルチェックイン		(夕)	(夕)
6/28	土	10:00		ホテルチェックアウト(生徒)	引率: ホテル 生徒: ホーム ステイ	(朝)	(朝)
		全日		生徒: ホストファミリーデイ 引率: 委員会と観光		★ ★	昼 夜
6/29	日	9:00	北部	県内バスツアー(美ら海水族館)	引率: ホテル 生徒: ホーム ステイ	(朝)	(朝)
		全日		(ホスト生徒も)		★	昼
6/30	月	15:00		帰着		★	(夜)
		AM	北谷	うちな一家視察、表敬訪問(町長室)	引率: ホテル 生徒: ホーム ステイ	★	(朝)
6/30	月	12:00		昼食(教育長、教育委員と懇親会)		昼	昼
		PM		着物・お茶会体験 ニライセンター和室		★	夜
7/1	火	8:20	桑江中	桑江中学校訪問(給食まで)	引率: ホテル 生徒: ホーム ステイ	★	(朝)
				給食		昼	昼
7/1	火	14:00	アラハビーチ	インディアンオーク号見学、マリンスポーツ体験(ホスト生徒も)		★	(夜)
7/2	水	8:20	北谷中	北谷中学校訪問(給食まで)	引率: ホテル 生徒: ホーム ステイ	★	(朝)
				給食		給	給
7/2	水	14:00	博物館	博物館&製作体験		★	(夜)
7/3	木	8:15	浜川小	浜川小学校訪問(給食まで)	引率: ホテル 生徒: ホーム ステイ	★	(朝)
				給食		給	給
7/3	木	17:00	ニライセンター	送別会 17:30～19:00		送別会	送別会
7/4	金	5:00AM		ホテルAM5時 那覇空港着AM6時 出発 7:15 JL900便	-	★	(朝)
		8:00		北谷着 解散			

